APT

APT ニュースレター

2024 年 12 月発行

京都 YWCA

Asian People Together

No. 126

Contents

●第 32 回　東九条マダン「いこかつくろかみんなのまつり」　1~2
●研修報告　通訳と協議するためのポイントとは？　3
●プチマルシェ　3
●ブックレビュー　4
『移民の子どもの隣に座る～大阪・ミナミの「教室」から～』
『それでも、私は憎まない』
●新メンバー紹介　5
●四コマ漫画　5
●2024 年 8 月～11 月活動報告 ●編集後記　6

第 32 回　東九条マダン「いこかつくろかみんなのまつり」

去る 11 月 3 日の日曜日、午前 11 時から元・陶化小学校の校庭にて東九条マダン（広場）が開催された。これは京都駅の南、東九条で毎年 11 月初めに開催する地域のおまつりで、毎年数千人の来場者がある。みんなが参加し作り上げるまつり「いこかつくろか東九条マダン」がコンセプト。コリアン文化だけでなく、この地域に存在する多様な文化、その全てを楽しく生き生きと表現できる場として東九条マダンは存在する。国籍、民族、性別、障害の有無も年齢も関係なく楽しめる「まつり」を目指している。

2024 年第 32 回東九条マダンポスター

京都 YWCA もこの「まつり」に出店することが決まった。私たちの出店は 8 年ぶりで、参加者メンバーの気持ちも高まった。「タイカレー」と「コーヒー」を販売することになり、台風の影響で雨も心配される中、延期を覚悟で前日の仕込みに臨んだ。以前に出店した時の記憶を頼りに、買い出しを行い、100 食のカレーが出来上がった。価格は、カレーは400円でコーヒーは200円。ただし 100 円上乗せで販売し、容器がかえってきた時点で 100 円を返金する、ゴミを出さないエコを考えた上での以前からの販売方法である。京都市から販売者への注意が紙面で配布され、「使い捨ての容器を使用すること」と書かれていたが、市に確認し、毎回未使用の容器で提供する事で許可を得た。

当日は、きれいな青空が広がる晴天を迎えた。現地では朝 9 時に集合し、準備に忙しい。卓上ガスコンロでカレーを温め、水は使えなかったが電気が使えたので、コーヒーマシンでドリンクを作った。YWCA の幟を立てて、京都 YWCA と書かれたビブスを着て準備は整った。一方、校庭ではさまざまな催しの準備に余念がない。ステージが用意され、その上に椅子やマイクもスタンバイされた。ステージの前には、三面太鼓がいくつか置かれ何か上演されるらしいことが伺える。校舎の外壁にはマダンのポスターや垂れ幕が貼られ、校舎にも垂れ幕が飾られ、たくさんの旗も青空になびき、多くの出店者たちもスタートするのを待っていた。校舎の脇では、チャンゴなどを持ち民族衣装に身を包んだ、老若男女の人たちがパレードの始まりを待っている。京都 YWCA から

京都 YWCA ブース

多文化保育に参加させていただいている「カトリック希望の家こども園」の子どもたちも副園長先生を筆頭にまだかまだかと出演を待っている様子であった。

その間、他の出店者たちを見回してみると、校庭を取り囲むように、花や古着、冷たいドリンク、焼きそば、お好み焼き、綿菓子、フィリピンの春巻きやパエリアまで様々なお店がテントの下で準備をしていた。コリアンフードも多く出店され、美味しそうな匂いがあたりを漂よっていた。

まつりのパレード

いよいよまつりのスタート。子ども園の子どもたちが太鼓を叩きながら、先生と一緒に校庭に入ってきた。円を描くようにパレードをし、次に小学生、そして大人たちと続いた。太鼓の音はリズミカルで力強く、聞いている私たちを引き込んで、心が高揚していくのを感じた。全員が校庭に入ったところで、みんなで太鼓の共演、そしてクライマックスを迎えてパレードは終了した。その後も太鼓や、ダンス、またステージでは吹奏楽部の演奏やのど自慢や軽音楽部の演奏までプログラムは盛りだくさんだった。このほかには「あそび＆体験コーナー」や「展示コーナー」もあり、食べて、歌って、遊んでと充実したまつりであったように思う。

まつりで太鼓を披露する人の中には高齢者もおられ、食を楽しむ外国の人もちらほら見かけられ、障がい者の方も来られていて、ソーシャルインクルージョン（社会的包括）を肌で感じる１日であった。午後２時くらいになると日も翳り始め、少し寒くなってきたからか温かいコーヒーが良く売れ始めた。こうして盛り上がったまつりも午後３時には、あちらこちらで片付けが始まり、楽しかった一日も幕が降りようとしていた。

大阪の鶴橋で韓国朝鮮のお祭りが始まり、他の地域にも広がったが、現在も続いているのは京都の東九条マダンだけであるらしい。それは、このイベントが韓国朝鮮半島の人々のみならず、地域を巻き込んだお祭りであったからだという。こうした貴重なまつりを今後も地域、そしてみんなの力で残していけることを願う。心もお腹も満たされた一日であった。

（H・K）

賑やかな会場と横断幕

「東九条は、笑顔がいっぱい」

【研修報告】

通訳と協働するためのポイントとは？

11 月 15 日、コミュニティ通訳利用者研修に参加しました。相談者の適切な支援を進めるためにはAPTでは通訳の存在は欠かせません。通訳をお願いする立場の「利用者のための研修」というのが今回の受講の決め手でした。

講座の最初に「通訳者体験」を行いました。隣席の方から１分間の自己紹介を受け、内容をメモ、そして他の方へ伝えるというよくある「他己紹介」ですが、日本語で聞いた通りに日本語で伝えることが難しい！まず通訳者の基本であるメモは追いつかず、初対面で何を話されるか全く準備のない中で１分間、話を聞き続けるともう頭の中はてんてこ舞い。かつ、聞いたままに「私は～です」と一人称でうまく伝えられず、不自然になってしまうのでした。

続いて講師からコミュニティ通訳の特徴として「外国人は普通の人なのに対してもう一方は弁護士や医師などの専門家が多く、対話を行う両者の間の力関係に差がある」、「外国人側は年齢や教育の程度など多岐にわたっており言葉のレベルや種類がさまざま」、そして「文化的要素が大きく関わる」などの説明がありました。コミュニティ通訳者はこのような状況で双方の対話になるように仕掛けていく立場だということです。また通訳を使うときの注意点として①通訳に入る前に通訳者の役割・立場を説明する、②通訳者は会話の当事者の目線を遮らない場所に立つ、③通訳者にもやさしい日本語を使う（その方が訳しやすい）、④原則、逐語訳（ひとつずつ対話を訳す）、⑤通訳者は一人称（私は～）で訳す、⑥通訳者がわからないときは他の言葉で言い換える、⑦「これ通訳しなくていいですが・・・」のような本人に通訳できないことは話さない、⑧長時間の通訳は疲れるので30 分を越えたら休憩が必要かどうかを通訳者に確認する、⑨事前に可能な範囲で通訳者に情報提供を行うなどがあげられました。通訳者にとって困った利用者としては「先に言うからあとで全部説明して」と話し始めたり、早口声が大きい・小さい、「えーっと」を繰り返したり方言を多用するなど話し方がわかりにくい、熟語（漢字の言葉）を使いたがるなどがあげられ、我が身を振り返るよい機会となりました。最後に「外国人は利用者のことをよく見てますよ。目線・しゃべり方など細かく観察されている。信頼できないと判断されたら本当のことは言えない。言葉にならないところも見られていることを自覚してくださいね」と研修は締めくくられました。

（O・Y）

講師：村松紀子さん　医療通訳研究会（MEDINT）代表、スペイン語通訳相談員
主催：特定非営利活動法人外国人ヘルプライン東海・公益財団法人愛知県国際交流協会

プチマルシェ

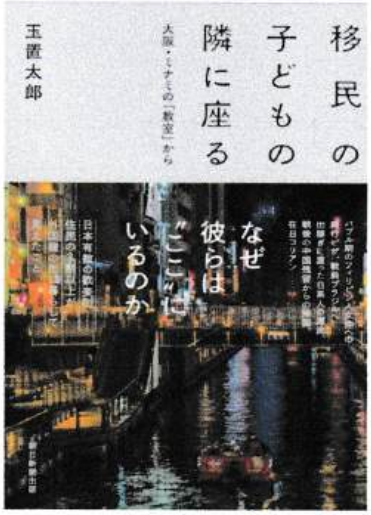
10 月 19 日、京都 YWCA で秋恒例の“プチマルシェ”が開催されました。“プチマルシェ”は京都 YWCA 全体でファンドレイジングの一環として近年毎年秋に開催しているイベントです。

衣類や雑貨のリサイクルコーナーをはじめ、京都 YWCA の委員会がそれぞれの活動紹介を兼ねて出店しました。自立援助ホーム「カルーナ」と若者の居場所事業「Y ここキッチン」がお昼ご飯やコーヒーを提供していました。APT も多文化共生委員会から参加し、にほんご教室「洛楽」とともに活動を紹介するパネルを展示、雑貨とケーキを販売しました。また、APT の相談者もお手伝いしてくれました。外部のお店や作業所からの出店もあり、また最後にはお楽しみ抽選会で結構いいものが当たっていました。

（G・S）

ブックレビュー

『移民の子どもの隣に座る～大阪・ミナミの「教室」から～』(2009)
玉置太郎著　(朝日新聞出版局)

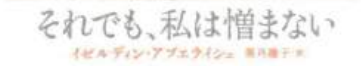


プロローグに、著者が「外国人」や「外国ルーツ」ではなく、あえて「移民」や「移民ルーツ」という言葉を選んだことについて、「外国人」という言葉は、「国」を視点の基盤に置いているが、「移民」に対する視点の基盤はあくまで「移動する人」そのものにあるからだという理由が書かれている。これこそまさに、私たちが支援をするにあたって必要な視点ではないかと思う。

本書の内容はタイトル通り、大阪ミナミにおいて教育支援を行っている著者が出会ったさまざまな事情を背負った子どもたち、そしてロンドンに留学した際に同じような組織で「移民」の子どもたちを支援した際の様子が描かれている。彼はそこで「外人＝外の人」として自分が受けた言葉や行動を、知識ではなく経験として理解し、新たな視点を見出した。

子どもたちの世界は狭い。だからこそ周辺からの目線や言葉は大人の感じるそれとは段違いに大きく影響するだろう。人として、心して対峙すべきことを学ばされた。　(O・R)

『それでも、私は憎まない』(2014)
イゼルディン・アベライシュ著　　高月園子訳(亜紀書房)



著者は、ガザ地区のジャバリア難民キャンプで生まれ育ったパレスチナ人医師。彼は、イスラエルで働く許可証を持つ一握りの人間である。国境を越えての出勤には毎回検問所で一貫性のない取り調べのため、恐怖感で心身を消耗させている。だがイスラエルの病院では、患者の治療に国籍は関係なく、また共に働く仲間との間にも国籍はない。医師として二つの国の架け橋となることを信じ、普段の生活ではイスラエルによるさまざまな理不尽な制裁にも屈しない、8人の子どもの父親であった。

2008年の年末に始まった攻撃により食料確保もままならない不自由な生活の中、2009年2発のロケット弾が娘の部屋に撃ち込まれた。部屋の中は、何もかもが破壊され、三人の娘と姪の体もばらばらになった。この悲劇により、彼の信念は深まり、分断に橋をかけようとする決意は固まった。暴力は不毛で、かつ時間と命と資源の無駄使いである。暴力はさらなる暴力を生む。彼を通しての強いメッセージが私たちの心を打つであろう。　(H・K)

こんにちは！10 月から APT でボランティアに参加させてもらっている、同志社大学社会学部社会福祉学科 1 回生の森田陽花（はるか）です。私自身、朝鮮半島にルーツを持っている在日コリアンとして日本に生まれて暮らしてきたため、国籍条項やヘイトスピーチを身近で感じており、日本にいるマイノリティが幸せに暮らせる世の中にするためになにができるのかを考えてきました。これから大学生活で多様な経験をして、多文化ソーシャルワーカーとして在留外国人が抱える困難な問題を解決していきたいです。

京都 YWCA の APT を知ったきっかけは、バザールカフェで同志社大学のマーサ・メンセンディーク教授に教えていただいたことです。京都 YWCA は国籍や出自に関係なく一人ひとりが大切にされる共生を目指して、外国ルーツ児童の支援や日本語教室の実施、多言語電話相談などの多岐に渡る取り組みをしており、魅力的に感じました。その中でも多言語電話相談のボランティアを通して、実際の声に耳を傾け、それぞれの専門機関や専門家と協力しどのように問題を解決していくのかを学んでいきたいと考えております。これから、よろしくお願いいたします！

活動報告

2024年
8月1日～11月30日

8/ 1　外国人生活・医療ネット関西オンラインmtg
/ 3　RINK研修Zoom参加
/ 5　多文化こどもプログラム拡大宿題会
/19　多文化こどもプログラム拡大宿題会
/24　きょうと外国人支援ネットワークmtg
9/ 3　配偶者等からの暴力に関するネットワーク
　京都協議会実務者会議
/ 9　多文化子どもプログラムmtg
/17　DV被害者支援専門研修
　@京都府家庭支援総合センター
/21　APT mtg
10/ 1　多文化共生委員会mtg
/ 5　RINK第2回例会
/10　外国人生活・医療ネット関西オンラインmtg
/11　きょうと外国人支援ネットワークmtg
/14　多文化こどもプログラムBBQ
　@まつたけ山復活させ隊ベースキャンプ
/19　APT mtg／京都YWCAプチマルシェ出展
/21　多文化子どもプログラムmtg
/30　京都市はぐくみ室通訳者オンライン研修
/31　自治体国際化協会多文化共生の担い手連携促進
　オンライン研修
11/ 3　東九条マダン出店
/ 5　リコンアラートZoom参加
/15　コミュニティ通訳利用者研修
/16　APT mtg
/18　多文化子どもプログラムmtg
/26　多文化共生委員会mtg

相談対応集計

分類	項目	8月	9月	10月	11月	述数
相談対応数	継続	58	67	71	81	277
	新規	5	2	4	5	16
相談対応方法	電話	19	28	27	33	107
	SNS	11	8	5	19	43
	メール	24	22	30	21	97
	来所	1	1	2	1	5
	同行	3	7	7	1	18
	訪問	1	1	2	2	6
	FAX	0	0	0	1	1
	郵送	0	1	1	0	2
	通訳	3	5	2	3	13
	翻訳	1	0	2	2	5
通訳派遣依頼	京都市	14	14	9	1	38
	京都府	0	0	0	0	0
	他機関	3	3	4	1	11

ご支援は以下のQRコードで受け付けております。

APT支援　　多文化子ども支援

新規相談件数（計16件）

●国籍
フィリピン5，スーダン・ウクライナ・タイ・インドネシア・イタリア・アルゼンチン・日本・中国 各1，不明3

●性別
女性 13，男性 1，不明2

●居住地
京都 12，滋賀1，不明3

●内容（重複回答あり）
DV4，子育て3，在留資格2，精神不安2，国籍・性被害・住居・通訳・離婚・家族トラブル各1

編*集*後*記

私たちの活動の場所は、昔は寮として使われていた、ウィリアム・メレル・ヴォーリズ*の残した建物です。部屋にはクローゼットがあり、今でも手書きで「寮生活の一日の流れ」が貼ってあるなど、おもしろい発見のある空間です。（I.A）

*明治末に来日した米国人宣教師・建築士・実業家で、関西学院大学を始め多くの建築物を残した。

京都YWCA・APT

京都YWCAはキリスト教を基盤に世界中の女性が言語や文化の壁を超えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。
京都YWCA・APTは京都YWCA内で、多文化共生社会の実現を求めて外国籍住民のための支援プログラムを展開しているグループです。

相談は
電話　075-451-6522　　月曜日：13:00～16：00
　　木曜日：15:00～18：00
メール　apt@kyoto.ywca.or.jp